

7 月 14 日開催の決算説明会の主な質疑応答をテキストでご覧いただけます。内容につきましては、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しております。

Q1: 第3四半期では、国内ユニクロ事業の売上高、営業利益は計画比で下回ったということですが、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業、それぞれ計画に対してどうだったのでしょうか？

A1 堂前上席執行役員： 海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業では、ほぼ予定通りでした。国内ユニクロ事業でマイナスになった分が連結ベースでマイナスになっています。

Q2: この第3四半期では原材料高の影響が国内ユニクロ事業の粗利率に1.7ポイント影響したということですが、原料高は、今後秋冬シーズン、また来春夏シーズンにはどう影響するのでしょうか？

A2 堂前： 2011 年秋冬シーズンの原材料の確定は終わっていますので、原料高という状況は続きます。2012 年春夏シーズンに関しては、今、商品の企画が徐々に決まっているという状況ですので、原材料コストについては、これから決まっていきます。

Q3: 2011 年秋冬も原材料の高騰の影響が続くのであれば、商品の価格戦略はどうされるのですか？ もし、価格を据え置いた場合、原料高の状況はより厳しくなるのでしょうか？

A3 堂前： できる限り商品の価格は上げたくないと考えています。原料の影響は、商品の価格次第で上にも下にも振れます。今コメントできることは、来上期の原材料の状況は、この下期とそれほど変わらないということです。

Q4: この第 3 四半期では、海外ユニクロ事業が好調で、特にアジアが非常に良かったということですが、一方で、英国、ロシアが計画に対して下ぶれした理由や背景を教えてください。

A4 堂前： ロシアは、2号店、3号店を去年の秋から今年の春にかけてオープンしましたが、それらが良くないので厳しい状況になっています。英国は、去年1店舗当たりの売上高が非常に伸びたので、今年も増収を予定していましたが、実際には前年並みということで業績は計画を下回っています。

Q5: 第 3 四半期で春物在庫の処分をかなり実施したので、在庫は適正化されたのでしょうか？

A5 堂前： 去年は春物在庫が非常に多かったです。今年は、去年からの繰越分も含めて、処分を進めた結果、適正水準になっています。

Q6: 海外ユニクロが好調ですが、韓国と中国の出店予定数が少し下方修正されています。2011 年度では、韓国ですと14店舗の予定が11店舗になっています。この背景を教えてください。海外の出店の目線というのは何も変わっていないという理解でよいのでしょうか？

A6 堂前： 出店計画は、実際に出店が近づいてくると、本当にその物件が取れる、取れないということでタイミングが確定しますので、そういったことで修正いたしました。海外ユニクロ事業の出店にかかわる考え方には変化ありません。

Q7: 東日本大震災の影響による特別損失 7 億 9 千万円の内訳を教えてください。

A7 堂前： 店舗の損壊やだめになった在庫の損失が約2億円。それ以外としては、義援金や支援物資です。結論としては、震災による店舗の損失はそれほど大きなものはなかったということです。

**Q8: 第3四半期の国内ユニクロ事業の粗利益率は計画に対してどれくらい低下したのですか？
また、第4四半期の粗利益率は改善を見込んでいるのでしょうか？**

A8 堂前: 第3四半期の粗利益率は計画に対して0.7ポイント悪化しています。詳しくはスライド8ページをご覧ください。去年の第3四半期の粗利益率は、値引きをあまり行わなかったため、結構良かったのですが、今年はそれを普通に戻すといということ、0.6ポイントくらい悪くなるだろうと予想していました。ただ、震災で3月の売上げが悪かった分、春物の値引きを強化したことで、計画よりも粗利益率は悪化しました。第4四半期はどちらかという、逆に去年値引きが多かったことで粗利率が悪化していますので、今年はそれを元に戻すという計画になっています。

**Q9: 第3四半期の国内ユニクロの営業利益は、震災影響をどのくらい受けたのでしょうか？
もし震災がなければ増益になったのでしょうか？**

A9 堂前: 震災の利益への影響額がどれだけあったかというのは、特に出していません。既存店売上高は、3月と5月が減収になっています。売上高はそれほど落としていませんでしたが、春物の値引きを増やしたことで、利益は落としたということです。

**Q10: 第3四半期の業績が下ぶれしたことによって、第4四半期の粗利益率や経費の計画に変更
ありますか？**

A10 堂前: 5月までは、粗利益率は計画に対して下ぶれしていますが、第3四半期の営業利益の下ぶれは10億円とそれほど大きな額ではないと思っています。7月は、まだ2週間くらいですが、結構売上げの調子が良いので、第3四半期落とした利益分は第4四半期に取り戻せると考えています。

Q11: プリンセス タム・タム事業、セオリー事業の状況について、もう少し詳しいコメントをください。

A11 堂前: まずセオリー事業ですが、米国セオリーの業績が抜きん出て良いです。日本のセオリーとプリンセス タム・タム事業は計画線とまあまあです。一方、コントワー・デ・コトニエ事業は、今は少し苦戦しています。コントワー・デ・コトニエとプリンセス タム・タムが展開しているフランスは、市場としてはあまり良くないので、今はしっかりとインフラを作ったうえで、出店していきたいと思っています。昔の小さい店舗はスクラップ&ビルドしていくと思います。

Q12: 第3四半期3ヶ月間の国内ユニクロ事業のウィメンズ部門は減収でしたが、その要因を教えてください。品番数が増えすぎたことによる減収なのでしょうか？

A12 堂前: ウィメンズ部門の方が良くない状態が続いています。今までお話しているように、商品の品番数の絞込みをすることを進めており、その効果が徐々に現れ始めると考えています。多分、秋冬シーズンでは成果が出るのではないかと考えています。

Q13: +Jはこの秋冬で打ち切りということですが、その背景を教えてください。

A13 堂前: +Jで目指していた、「新しい完成された服、新しい未来を作る服」という目的は達成されたので、この秋冬で完了することになりました。ただ、今後も新進気鋭のデザイナーの方やどこかのブランドとコラボレーションするということは継続してきます。+Jのような、がっちりとした取組みは、今後やるのかどうかはまだ決めていません。

以上